

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：情報リテラシとしてのソーシャルプログラミング ILAS Seminar :Social Programming as an Information Literacy	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Information Management and Communication Professor, ATSUMI NORITOSHI		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	15 (15)
Target year	1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Mon.5
Classroom				Language of instruction	Japanese
Keyword	オープンソース / プログラミング / SNS / コミュニティ / ソフトウェアライセンス				
[Overview and purpose of the course]					
<p>個人的な日々の生活や企業活動等の社会的な営みにおいてネットは欠かすことができない社会インフラとなっており、我々は、ネットを通じて様々な情報を容易に取得・消費することができるだけでなく、ネットを通じて社会に容易に貢献できる時代に生きている。ネット社会の基盤の多くがソフトウェアで構築されており、特に、昨今のオープンソースソフトウェアの興隆は、生物の多様性が急速に拡大したカンブリア大爆発と同じような様相を呈している。このような背景の下、オープンソースソフトウェアのコミュニティへの貢献を通じて、自らが日々生きるネット社会をよりよくすることができるようになってきている。</p> <p>本セミナーでは、オープンソースとして公開されているネットアプリケーションを題材に、コミュニティメンバーとの協働作業によるソフトウェア開発を通じて貢献することで、ネット社会をプログラミングを通じて主体的に生き抜くための情報リテラシの研鑽を積む。</p>					
[Course objectives]					
オープンソースソフトウェアを対象にプログラミングを体感することにより、ネット社会に生きる知識人としての情報リテラシを身につける。					
[Course schedule and contents]					
以下の項目について、それぞれ2週程度のテーマ学習と実習を行う。授業回数はフィードバックを含め全15回とする。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロ、インターネットアーキテクチャ（担当:梶田・渥美） 2. Slack 等ソーシャルウェア（担当:渥美） 3. ネットアプリケーションプログラミング（担当:渥美） 4. Git と GitHub（担当:渥美） 5. 著作権とソフトウェアライセンス（担当:梶田） 6. コラボレーション課題（担当:梶田・渥美） 7. ソーシャルコントリビューション課題（担当:梶田・渥美） 					
Continue to ILASセミナー：情報リテラシとしてのソーシャルプログラミング(2)					

[Course requirements]

何らかのプログラミング言語を学習したことがあること。プログラミング言語や学校等での学習か独学は問わない。

[Evaluation methods and policy]

各項目ごとの課題レポートと最終課題レポートにより評価する。

- ・ 課題レポート(7回) 10点 x 7
- ・ 最終課題レポート 30点

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

各自が所有するノートパソコンを使用してプログラミング実習を行うため、授業時間と同程度の授業時間外での準備や見直しが必要となる。

[Other information (office hours, etc.)]

本セミナーは、各自が所有するノートパソコンを使用しながら行う。また、別途用意する学習支援システムを通じて、教材の提供、オンラインでの質疑、課題レポートの提出・返却を行う。使い方は開講時に指示する。